

新型コロナウイルス感染症の 5 類への位置づけ変更に伴う対応について

京都市保健福祉局医療衛生企画課
令和 5 年 4 月 2 8 日

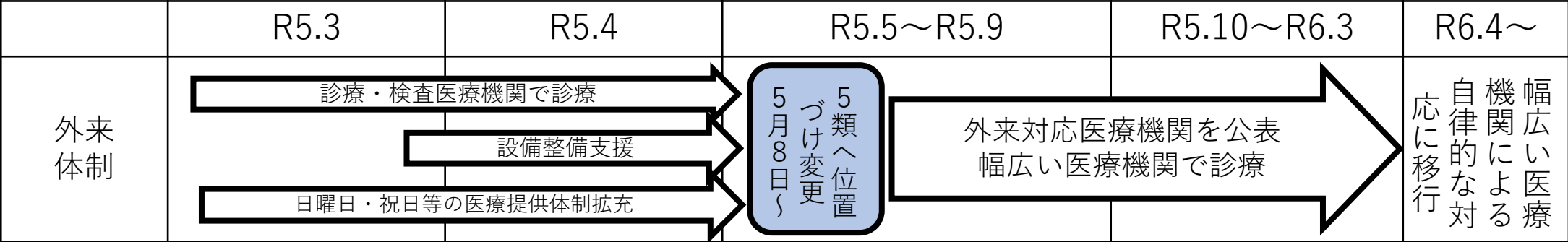
1. 医療提供体制①

【国及び本市の対応方針】

令和5年5月8日から感染症法上の位置づけが2類相当から5類に変更されることにより、行政の関与を前提とした限られた医療機関による特別な対応から、幅広い医療機関による自律的な通常の対応に移行する。
移行を進めていくため、京都府において9月末までの移行計画を策定。
5月8日以降の変更点等は次のとおり。

ア 外来体制

- ・発熱等の診療に対応する外来対応医療機関を拡充し、京都府ホームページで公表する。
診療・検査医療機関数：市内627箇所 → 5月8日以降の外来対応医療機関数：市内732箇所（4/27時点）
- ・基本的にかかりつけ患者に限定せずに診療が可能となる。
- ・変更前のゴールデンウィーク期間については、府市協調で支援金を交付し、診療・検査体制を確保する。
5月3日～5日 医療機関：市内128箇所、薬局：市内92箇所（4/26時点）
- ・5月8日以降は通常医療体制へ移行するため、日曜日・祝日における診療・検査体制確保の支援金は廃止。



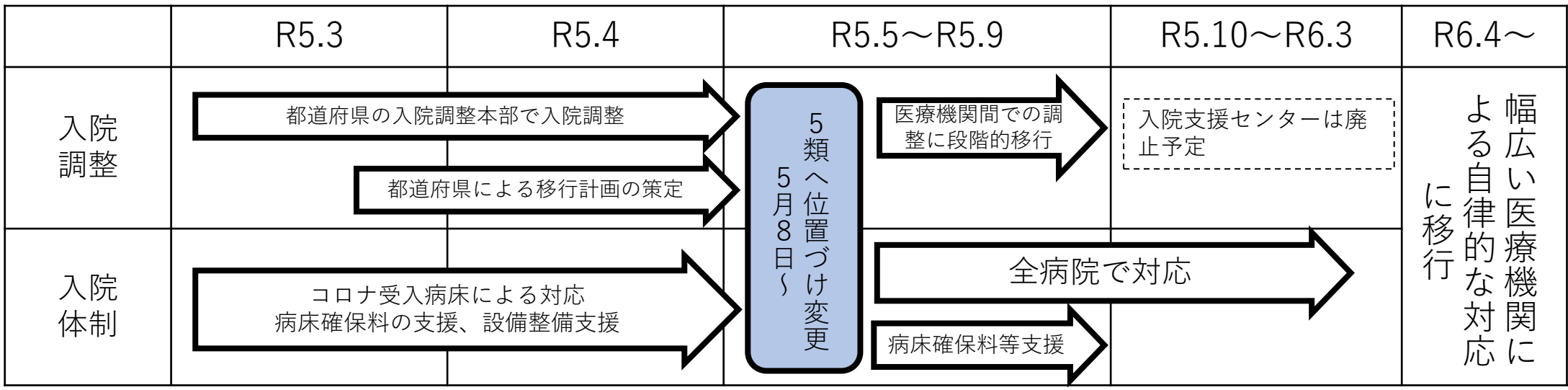
1. 医療提供体制②

イ 入院調整

- ・ 軽症・中等症Ⅰの患者：医療機関間で調整。
- ・ 重症者・中等症Ⅱの患者：保健所を経由せず、医療機関が直接、京都府の入院支援センター（入院医療コントロールセンターを改編）に連絡し調整。10月以降は、その進捗を踏まえ、医療機関間における調整に移行。（入院支援センターは廃止予定）
- ・ 保健所による医療機関等への搬送は終了。

ウ 入院体制

入院が必要な方への対応を全ての病院で行うことを目指す。
府下の病床数 61病院 937床（4月1日時点）→104病院 1,045床（5月8日以降）



1. 医療提供体制③

エ 自宅療養

- ・ 個々の陽性者についての発生届がなくなり、感染症法に基づくプッシュ型の健康観察は国通知に基づき終了。
- ・ パルスオキシメーター等の貸与は5月6日午後5時までの受付分、生活支援物資の配送は5月4日午後12時までの受付分をもって終了。
- ・ 陽性者登録制度は、5月7日午後3時までの受付分をもって終了。
- ・ 新たな変異株の出現等により感染者が著しく増加し、医療ひっ迫が懸念される場合は、本市として自宅療養者等の支援を検討・実施。

オ 宿泊療養

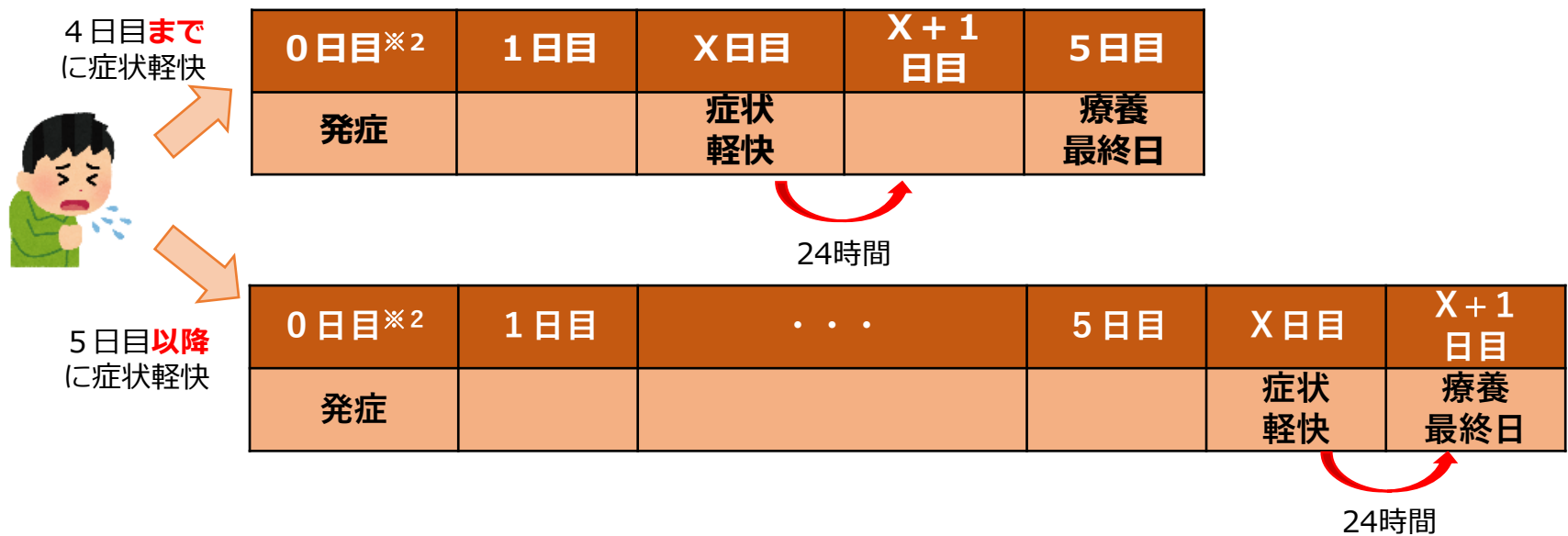
宿泊療養施設は廃止される。

	R5.3	R5.4	R5.5～R5.9	R5.10～R6.3	R6.4～
自宅療養		24時間医療管理体制・往診医療機関支援等	5類へ位置づけ変更 5月8日～		幅広い医療機関による 自律的な対応に移行
		パルスオキシメーター等、生活支援物資の配送			
		陽性者登録制度			
宿泊療養		宿泊療養施設（3月末で一部廃止）			

※ 5月8日以降の自宅療養に係る医療支援の実施は、医療ひっ迫が懸念される場合等、本市として検討・実施

2. 外出を控えることが推奨される期間等（療養期間）

発症日から5日間経過し、かつ、症状軽快後24時間経過するまで（※1）



※1 外出を控えることが推奨される期間にやむを得ず外出する場合でも、症状がないことを確認し、マスク着用等を徹底してください。
※2 無症状の場合は検体採取日を0日目とします。



【療養中の過ごし方】

発症後3日間は、ウイルス排出量が非常に多く、発症後5日間が周りの人にうつすリスクが特に高く注意が必要です。また、10日間が経過するまでは、ウイルス排出の可能性があることから、不織布マスクを着用したり、高齢者等ハイリスク者と接触は控える等、配慮をお願いします。

発症後10日を過ぎても咳やくしゃみ等の症状が続いている場合には、マスクの着用など咳エチケットを心掛けてください。

症状が重い場合（高熱が続く、呼吸が苦しい、意識状態がおかしいなど具合が悪い場合）は、早めに医療機関を受診してください。

3. 医療費の公費負担

- ・ 外来医療費及び医療機関におけるコロナ検査（保険診療）の自己負担分が無料となる公費支援は終了（保険診療における自己負担額が発生）。
- ・ これまで特例承認又は緊急承認されたコロナ治療薬の自己負担額は引き続き全額を公費支援。
- ・ 入院医療費は医療保険制度における高額療養費算定基準額の自己負担限度額から原則2万円（2万円未満の場合はその額）を減額。
- ・ これらは9月末までの暫定措置であり、その後は感染状況等や他の疾患との公平性も考慮し、国で検討。

4. 高齢者等施設支援

- ・ 医療機関と高齢者施設等との連携等により、入院が必要な高齢者が適切かつ確実に入院できる体制の確保を引き続き進める。
- ・ 施設等における感染対策の徹底、医療機関との連携強化、療養体制の確保等は当面実施。（集中的検査、医療コーディネートチーム、協力医療機関又は外部の医療機関による往診に必要な経費の支援等）

	R5.3	R5.4	R5.5～R5.9	R5.10～R6.3	R6.4～
医療費 公費負担	外来・入院医療費の公費負担		5 5月8日 5類へ位置づけ 変更	原則、自己負担（9月末までは軽減措置）	幅広い医療機関 による自律的な 対応に移行
高齢者 施設等 支援	従事者の集中的検査、施設内感染対策の徹底 施設医・協力医療機関等の支援			従事者の集中的検査、施設内感染対策の徹底、協力医療機関等の支援	

5. 相談対応

- ・発熱時等の受診相談及び陽性判明後の体調急変時の相談をお受けするため、9月末まで引き続き相談窓口を設置。
- ・京都市新型コロナ陽性者フォローアップセンター（以下、「FUC」という。）は、きょうと新型コロナ医療相談センター（府市共同設置）と一体的に運用することとし、名称を「きょうと新型コロナ医療相談センター 京都市療養者相談ダイヤル」に変更。
- ・療養支援のためのチャットボットやLINEアカウント「京都市新型コロナサポートヒロメズ」も9月末まで継続。

＜相談窓口＞

（発熱時等の受診相談）

きょうと新型コロナ医療相談センター 0 7 5 － 4 1 4 － 5 4 8 7

（陽性判明後の体調急変時の相談）

きょうと新型コロナ医療相談センター 京都市療養者相談ダイヤル 0 5 0 － 3 6 1 4 － 9 5 7 5

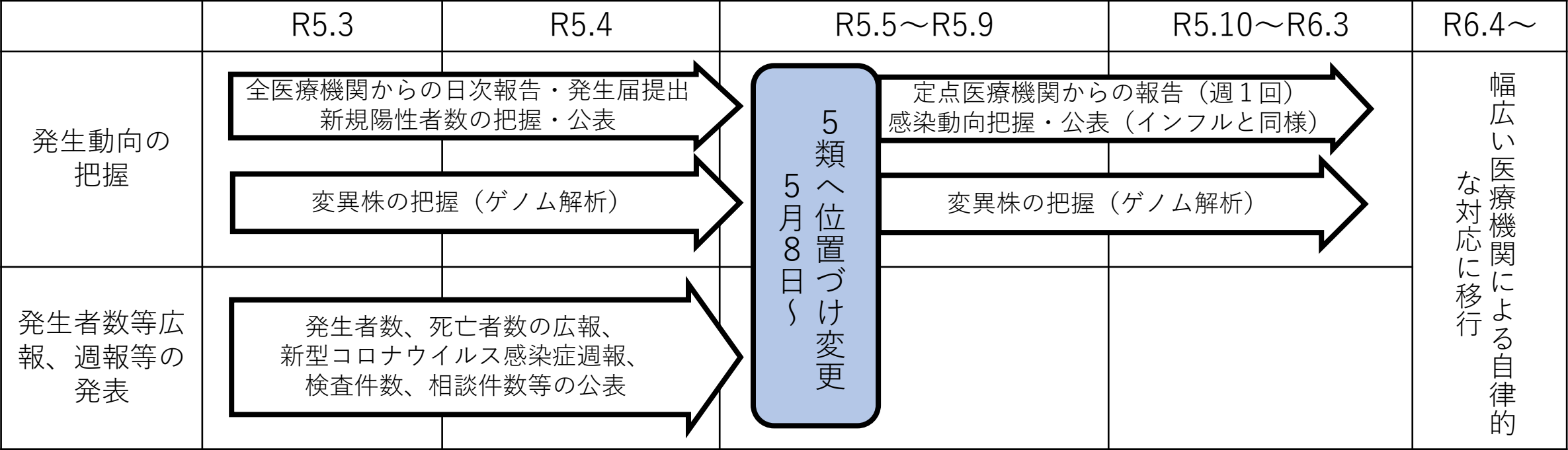
	R5.3	R5.4	R5.5～R5.9	R5.10～R6.3	R6.4～
相談窓口	きょうと新型コロナ医療相談センター （受診相談） FUC（陽性者登録、プッシュ型の健康観察、体調急変時の相談等） チャットボット、LINEアカウント		5類へ位置づけ変更 きょうと新型コロナ医療相談センター（受診相談） 〃 京都市療養者相談ダイヤル（体調急変時等の相談のみ継続） チャットボット、LINEアカウント		幅広い医療機関による自律的な対応に移行

6. 発生動向の把握

- ・ 定点医療機関による感染動向把握に移行。
- ・ ゲノム解析による変異株の把握は引き続き実施。

7. 新規陽性者数等広報、週報等の発表

- ・ 新規陽性者数、死亡者数の広報は、5月7日分の発表（5月8日広報）をもって終了。
- ・ 新型コロナウイルス感染症週報、検査件数、相談件数等の公表も、5月7日分までで終了。



8. 保健所体制

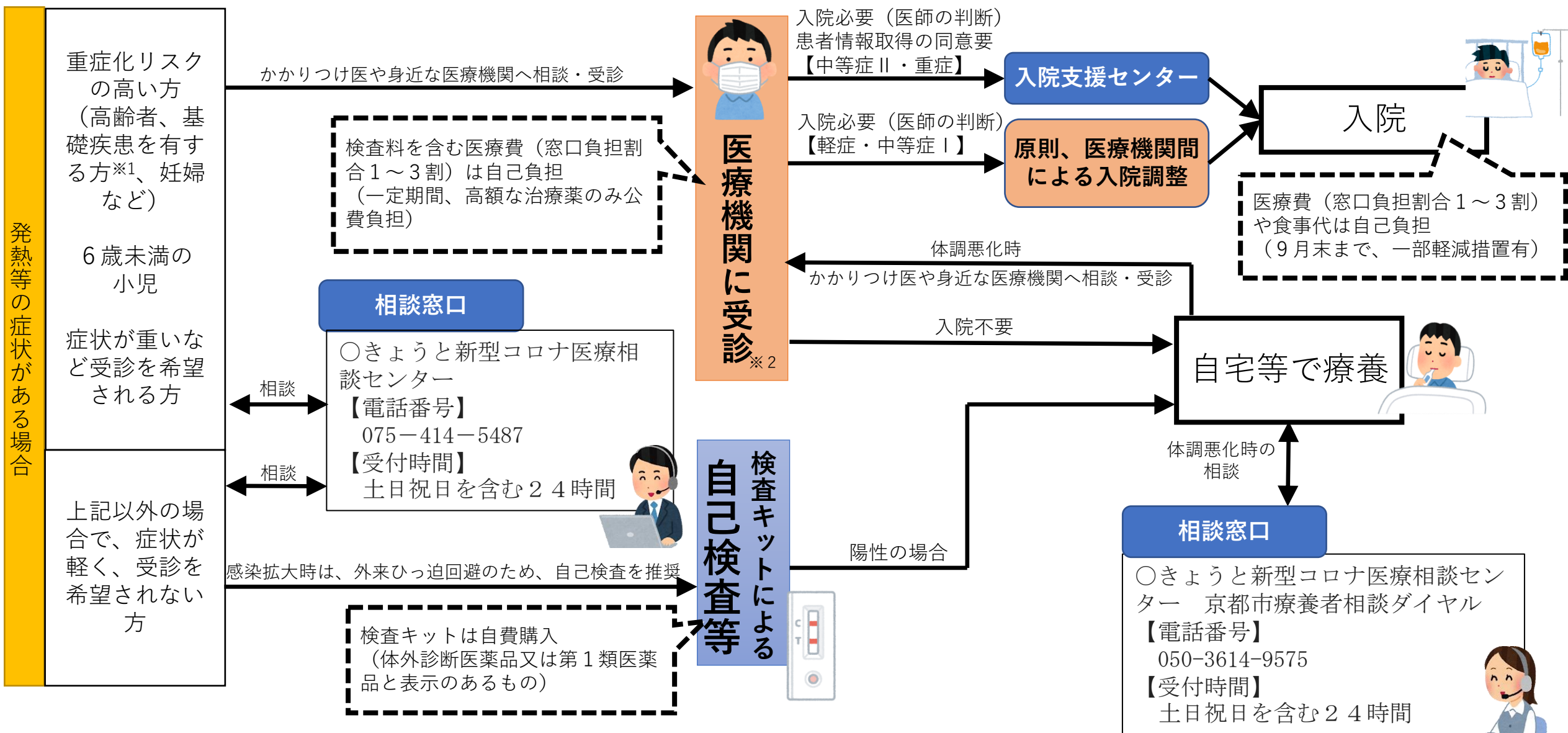
・ 5月8日以降は、これまでの全庁を挙げた臨時的な体制から、業務量に応じた平常の業務体制に移行し、基本的に平日昼間のみの対応に変更。（ただし、新たな変異株が発生した場合や感染が再拡大し、国における感染症法上の位置づけが再び変わる場合などは、速やかに体制を再構築する。）

	R5.3	R5.4	R5.5～R5.9	R5.10～R6.3	R6.4～
保健所体制	<div>8:45～22:00</div> <div>365日対応</div> <div>全庁職員応援体制</div>			<div>平日8:45～17:30 ※高齢施設等対応のみ 土曜日実施</div> <div>※保健所の主な役割が発生動向の把握や感染防止 周知啓発となるため、それに応じた体制に移行</div>	的関幅 なにより 対応に医療 移行自律機

9. 5類化に係るスケジュール

令和5年5月8日	類型変更（特別対応から通常対応へ考え方が転換） ・ 都道府県における移行計画に基づく医療体制に ・ 病床確保料・診療報酬の見直し施行
～9月30日	医療体制の状況等を検証（行政の相談窓口の設置、診療報酬の見直し等）
令和6年3月31日	移行期間終了
4月1日	診療報酬、介護報酬が同時改定され、新たな診療報酬体系に移行 ⇒幅広い医療機関による自律的な対応に移行 （保健所の役割は発生動向の把握のみとなる。）

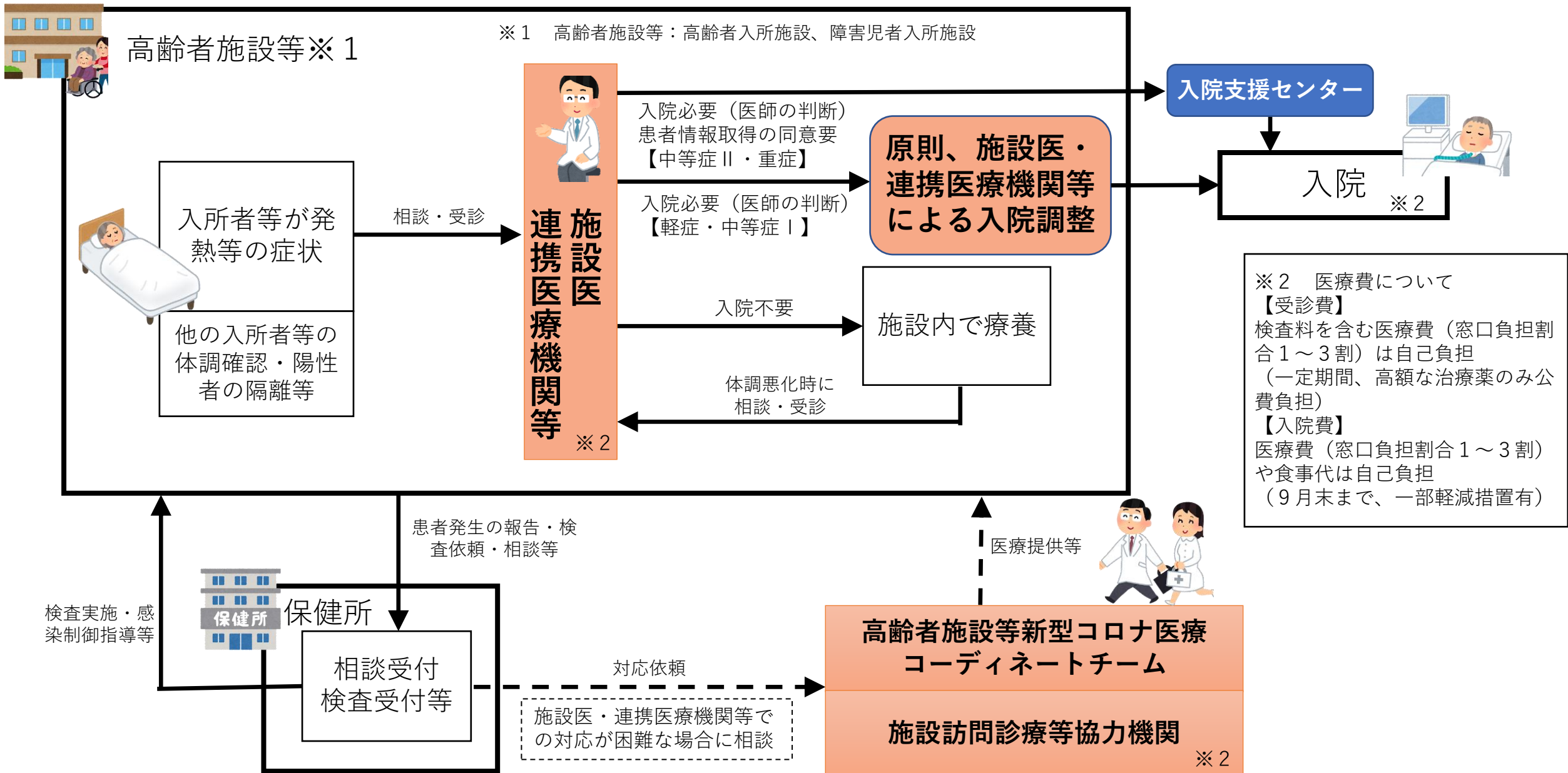
【令和5年5月8日以降9月末まで】新型コロナウイルス感染症の受診検査・療養体制



※1 基礎疾患を有する方：悪性腫瘍、慢性呼吸器疾患（COPD等）、慢性腎臓病、心血管疾患、脳血管疾患、喫煙歴、高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満（BMI30以上）、臓器の移植、免疫抑制剤、抗がん剤等の使用その他の事由による免疫機能の低下の者

※2 医療機関は、必要に応じて画像検査等受入医療機関と連携

【令和5年5月8日以降9月末まで】高齢者施設等の療養体制



<参考> 5類感染症への移行に伴う変更点

項目	5 類移行前（～5/7）	5 類移行後（5/8～）
外来医療費	陽性判明後の外来医療費の自己負担分を公費支援	新型コロナ治療薬の費用は9月末まで公費支援を継続 その他の外来医療費は保険診療に伴う自己負担
入院医療費	入院医療費の自己負担分を公費支援	新型コロナ治療のための入院費用は、9月末まで高額療養費の自己負担額から、原則2万円（2万円未満の場合はその額）を減額
検査費用	患者を発見・隔離するため、有症状者等の検査費用を公費支援	終了
クラスター発生時の集中的検査	入院医療機関、高齢者施設等における従事者等への集中的検査は、行政検査として実施	9月末まで継続
発熱時等の受診相談	きょうと新型コロナ医療相談センターで24時間対応	9月末まで継続
陽性者及びその家族からの相談	FUCで24時間対応	陽性判明後の体調急変時の相談のみ9月末まで継続 きょうと新型コロナ医療相談センター 京都市療養者相談ダイヤルに名称を変更
健康観察	発生届対象者について、保健所又はFUCが実施	終了。ただし、5月7日以前に陽性となり希望する方については、療養期間中（最大7日間）は引き続き実施する。
生活支援物資	希望者に対し提供	5月4日午後12時までの受付分で終了
パルスオキシメーター	健康観察上、必要と認めたものに貸与	5月6日午後5時までの受付分で終了
陽性者登録	FUCに申請	5月7日午後3時までの受付分で終了
宿泊療養施設	患者隔離のための施設として京都府が設置	廃止（滞在は5月8日の午前8時30分まで）
療養証明書	発生届が提出された者について、療養終了後に必要となる証明書を発行	5月7日までに診断され、発生届が提出された者のみ継続（ただし、MyHER-SYSでの対応は9月末まで）
濃厚接触者等への宿泊施設あつせん	家庭内感染を予防するため、希望する濃厚接触者等に宿泊施設をあつせんし、宿泊費の一部を補助	5月2日午後5時30分までの受付分で終了 滞在は5月8日のチェックアウト時刻まで